

徳島県総合計画審議会 第1回未来創造部会報告

1 開催日時 平成22年7月1日(木) 15:00~16:30

2 「10年後のとくしまの姿」についていただいたご意見の概要

◎「経済・雇用」に関するご意見

○緊急雇用対策も良いが、雇用される人のスキルアップを図り、継続した就労に繋がるような施策が必要ではないか。

○徳島県ですっと生活していくためには、環境や住みやすさも重要であるが、経済的なインセンティブもなければ、長続きしない。単に地域のものを地域で消費するだけではなく、「地産地消」の「消」を「商」に置き換え、地域の産品や伝統を他県に向けて発信することで、地域や自分に何らかの恩恵が得られる仕組みが必要である。

○24市町村の特産物を使い、地元ならではの料理を披露する料理コンテストを開催し、特産物のPRを行うとともに、そのレシピをインターネット等で公開することにより、地元特産物を使った料理を日々の献立に取り入れてもらい、特産物の地元消費増を目指してはどうか。

◎「安全・安心」に関するご意見

○将来の徳島県を「限界集落」ならぬ「限界県」にしないためには、「住み続けたい町」あるいは他から見て「住んでみたい町」にしなければならない。そのためには、色々な意味での「安全・安心」が重要である。

その1つは「地産地消」で、徳島県は生産県のイメージがあるが、自給率は44%である。また、エネルギーの地産地消ということも、今後は考えられる。できる限り、県内で色々な意味での「地産地消」を進めていく知恵が必要で、そういった中で雇用も創出されるのではないか。

◎「教育・福祉」に関するご意見

○徳島県の医療・介護・福祉施設の状況は、施設数も多く、全国的に見ても進んでいる。これまで施設が多いことに関し、自治体の首長は、どちらかという、「保険料が上がる」などのマイナスイメージで捉えていたと思うが、糖尿病のメディ

カル・ツーリズムのように、この状況を逆手に取っていけば良いのではないか。日本全国を見ると、埼玉県などは、今後急激に高齢化が進み、また、国外でも中国は今後急激に高齢者が増えると予想される。

気候温暖で施設・人材ともに充実している徳島に、高齢者を呼び込めば良いのではないか。

○行政や地域の人たちが子育てのサポートをしてくれる社会が実現すると、安心して子どもが産める。県外から若い人たちを呼び込む際にも、周りのサポートがなければ不安であり、この部分のサポートがあれば、人口が増え、明るい未来に繋がる。

○中学校にヘルパー3級などの資格取得のカリキュラムを取り入れてもらいたい。これに、救急救命の初歩的なものを加え、必修で中学生が勉強する。これを、毎年積み重ねると、例えば、東南海地震の際などに、人命を助けることができるかもしれず、将来の「安全・安心」に繋がっていく。

○10年後、中国はたいへん大きな商売相手となっている。小さいうちから、中国語か英語をしっかりと教え、有能な人材を育成すれば、あっと驚く10年後になる可能性がある。

◎「環境・地域づくり」に関するご意見

○「U・I・Jターン」の促進に関しては、徳島に来てもらうためのアピールの手法が大事になってくる。徳島をもう一度見直すことで、その魅力を発見し、それをどのようなメディアを使って、どのタイミングで伝えていくのか検討しなければならない。

○都市から帰ってきた人が住めるような町づくりが必要で、田舎だからこそできる「コンパクトシティ」、特に高齢者や子どもが住みやすいバリアフリーの小さな町を造り上げて欲しい。

○高齢者がマイカーに頼らず、徒歩や公共交通機関でどこにでも移動できる町づくりが重要で、公共交通機関の充実と自転車道の整備は、今後欠かせないものと思う。

○町づくりに関して、NPOや民間が、積極的に主体となって動けるような環境づくりを進めることが必要ではないか。行政とNPO・民間が互いに緊密に連携し、「徳島を一緒に変えていく」というような、アプローチができれば良いのではないか。

○高齢者ばかりに重点を置くのではなく、若者にも魅力ある町づくりを進めるべきである。

○徳島県内でも「U・I・Jターン」の方が増えて、実績が上がっている地域もある。そういった地域を先進的なモデルとして、計画に取り入れていくのも1つの案と思う。

○田舎に家族で移り住みたいという都会の若い家族を呼び込むことにより、田舎の活気を取り戻し、徳島県全体の活性化に繋げてはどうか。そのために、県営住宅を田舎に建設するほか、田舎の空き家のリフォームに対して支援を行う。また、県営住宅や空き家のリフォームの際は、県内産の木材を使用し、需要に繋げる。

◎「にぎわい」に関するご意見

○地元の間人は、地元のことを知っているようで知らないのではないか。そこに住む人が、もう一度自分の足を使って町の魅力を探し出し、データとして目にできるような形にすればどうか。それを地域資源として、もう一度見直し、PRすることにより、観光資源にまで高めていけば良いのではないか。

○徳島の人気観光スポット、人気の土産など、徳島に関する様々なランキングを、観光案内所や空港など、人が集まる場所に掲示するほか、徳島にちなんだクイズを観光スポット等に設置し、全問正解者には特産物を贈呈してはどうか。県民にとっては、徳島の魅力を再発見する契機となり、県外の方にとっては、いっそう徳島に関心を持ってもらう契機となる。

○「祭り」は地域の元気の指標であるが、その「祭り」が人口の減少や財政難等の影響で休止や中止を余儀なくされている。地域の伝統を守るとともに、地域の活性化に繋げるため、「祭り」の継続や復活のための支援が必要ではないか。

◎その他のご意見

○県民の皆様からの意見を見ても、徳島県の強みと弱みが交錯している。強みの部分は、現在の方法でどんどん伸ばしていくことができると思うが、弱みの部分は、新しい視点を取り入れて、取組方法を変えていく勇気と決断が必要と思う。

○経済的な売上げ増や右肩上がりのイメージから脱却し、経済的な満足とは別の、幸福感を高めるような施策が必要ではないか。

○今後の日本を考えると右肩上がりの成長を持続することは難しく、物質的な豊かさを現在のまま求め続けると、食糧事情はもちろん、地球の環境が持たないことは自明の理である。個人の生活レベルを考えた場合にも、右肩上がりの成長が見込めない中で、いかに豊かに生きるか、精神的な豊かさをいかに向上させるかが問われており、そのような中で、「より豊かな生活を実感できる徳島」を目指すべきである。